



しもなかっこだより

— 最終号 —



令和5年3月16日
小田原市立下中幼稚園
文責 久保寺 佳香



下中幼稚園は、
【学ぶ力】「やりたいことにじっくりと取り組める子」
【豊かな心】「自分も友達も大切にできる子」
【健やかな体】「元気に思い切り体を動かして遊べる子」
【関わる力】「言葉での伝え合いを楽しめる子」
4つの姿を大切に、子どもの育成を目指します。

園庭では、桜の花が満開の時を迎えようとしています、少しだけ前の話をさせてください。

季節の大きな節目である立春。その頃、園舎の裏手では、河津桜が可愛い花を咲かせ始めました。当番に来た子どもたちと一緒にその花を見ながら「これからどどんぽかぽかの春がやってくるね」と、春の到来を楽しみにしていたところ、今年はそこからが冬本番でしたね。急激に気温が下がり、園庭は霜で真っ白。立っただけで凍てついてしまいそうな朝が続きました。



そんな寒さも子どもたちは友達にしていまいます。園庭にできた不思議な模様（園舎の形にできた影）に「こっちは寒い」「こっちは暖かい」「こっちは寒い」・・・と、飛び跳ねながら体感の違いを感じ取ったり、「スケートみたい！」と凍った芝生に足を滑らせてみたりしながら、感性を豊かにしていました。また、カップに水を入れ「明日は氷ができるかな？」「お花も入れたよ」「色水つくったけど、これ凍るのかな？」と毎日のように観察し、様々な形の入れ物を並べては想像力を磨いていました。



氷ができた日には、夢中になって友達や教師に伝え、できたものの形や大きさ、厚み、しびれるような手の感触などを、全身を使って感じ取り表現していました。



「不思議だな」「どうしてだろう」と思いを巡らせ、「あっ、そうか」と自分なりに答えを見つけたときのおもしろさを原動力に、子どもたちは様々な発見や工夫を楽しんでいました。

このように積み重ねてきた経験を力に、子どもたちは『科学の芽』を培い、小学校への学習意欲と繋げていくことでしょう。

「こんなに大きな氷ができたよ！」

青い空、白い雲、芝生の緑、黄金色に輝くイチョウの木、一面に広がる真っ白な世界、そして、春を呼ぶ色とりどりの花……。キャンパスのような豊かな自然の中で、子どもたちと向き合えることに感謝をしながら、幼児教育の充実に努めていきたいと思えます。

大切にしていること（遊びを通しての総合的な学び）

みなさんは、秘密基地で遊んだことがありますか？

子どもは狭いところが大好きです。どこにいるのかと思うとテーブルの下で遊んでいたりと、押し入れの中に隠れていたりと…子どもたちだけの不思議な世界を楽しんでいるようです。

つき組の秘密基地は、“工事ごっこ”から始まりました。「幼稚園に来る途中、工事をしていたよ」「工事の人が立っていたね」など伝え合いながら、立ち入り禁止のポールや標識などをつくり、大工さんは“トントントン”“カンカンカン”とお家を建て、警備員さんは誘導灯をもって安全に工事ができるように流れをつくっていきました。子どもの世界は本当におもしろいですね。見たものや気付いたことをどんどん遊びに取り入れていきます。



「オーライ、オーライ」



2階建てのお家の設計図ができると、大型積み木を持ち出し、今までの経験を生かして階段をつくりました。△と▽を合わせると形がうまく組み合わせることも経験の中から学ぶことができました。机や椅子、冷蔵庫にテレビ、リモコンなど、次々とイメージを膨らませ、2月に入る頃には、水道に蛇口、天井にはライトまで取り付けました。まるで本物のお家のように。

もちろん子どもたちの考えたものですから、遊んでいくうちに壊れてしまいます。そのたびに修理をし「どうやったら丈夫になるのかな」とみんなで考え、力を合わせて直すたびに大きくしっかりとした建物に生まれ変わっていきました。

子どもたちの基地遊びは、1月から今まで、途切れることなく続きました。自分たちの知恵を振り絞り、友達と共に試行錯誤しながら互いの良いところを認め合い、ひとつの形にしていく姿に大きなエネルギーを感じます。このように遊んだ経験は、子どもたちの原体験となり、心の奥底にいつまでも描かれていることでしょう。



「下にもぐって修理するね」
「なんだか、自動車工場の人みたいだよ」



リモコン、ピッ！
「何のテレビを見る？」



家に上がるときには靴を並べるのがマナーです。えらい！

保護者の皆様には、『遊びは学びである』という教育理念をご理解いただき、子どもたちがやりたいことに夢中になって取り組んできたことの成果を、“自立心”や“協同性”“規範意識・道徳性の芽生え”の育ちとして評価していただいたこと、とても嬉しく思います。

今後も、子どもたちの興味や関心に寄り添い、やりたいことに夢中になって取り組むことのできる環境を整えていきたいと思っております。

★つき組さんもさくら組さんも、みんなそろって大きくなったね★



「鬼の口はこんな感じ！」細かいところまできれいに切れるようになりました。



自分で絵の具の濃さを調節し色をつくりました。絵筆を優しく丁寧に扱いきれいに塗りました。



石井さんに教えてもらったコマ回しも上手になりました。「見て！紐にコマが乗ったよ！」



リボン結びができるようになりました。「やってあげるよ」と友達と結びっこです。



ハサミでチョコチョコキ・・・羊さんのトリミングです。本物のトリマーさんみたいね。



「お店にはアルコール消毒が必要だね」「硬い紙もこうやれば切れるよ」経験が生きています

大切にしていること（異年齢での学び）

下中幼稚園が“複式学級”となり、1年が過ぎようとしています。「初めて集団生活を体験するさくら組」と「1年間、経験を積み重ねてきたつき組」とが共に生活をする中で、たくさんの心のつながりがありました。4歳児は、5歳児の姿を見て刺激を受け、真似をしながら楽しい遊びをたくさん体験しました。5歳児は、4歳児と共に過ごすことで、人と関わるための“思いやりの心”を学びました。相手がどのような気持ちかを考えたり、いたわったり励ましたり、共に喜んだりできるようになりました。16人で過ごした毎日は、子どもたちにとって、互いの良さを感じることができる素敵な時間だったと思います。



ミーちゃんが大好きなさくら組さん！フロートをつくってショーの始まりです。「ミーちゃん、こっち向いて！」と、つき組さんは手作りカメラを向けました。



「いらっしゃいませ、クッキー屋さんです」と、移動販売がやってきました。つき組さんも工事の手を休めて買い物です。「甘くておいしいね」



真ん中は年長さん。
「足を埋められちゃったよ!」とにっこり!




パンジーで色水作り。「きれいなレモンジュースができたよ」「私はブドウジュース!」「みんなきれいだね」





「しいー、カメさんが起きちゃうよ」「静かに静かに…」カメさんの世話を毎日一緒にしたね。

保護者をはじめ、小学校の先生や地域のみなさまにもご協力をいただき、コロナ禍にもかかわらず、子どもたちが、たくさんの経験をすることができたことに感謝いたします。



令和4年度卒園記念品

みなさまからいただいた積立金で、「デジタル×アナログ時計」を購入しました。時計の読み方の学習に繋がります。大切に使用させていただきます。ありがとうございました。

3月3日の給食の海苔のパッケージには、3校1園の校章・園章が印刷されていました。共同調理場の先生方からの贈り物です。食育も再開していただきました。ご家庭でも“赤・緑・黄色”のバランスの良い食事に心掛けていきましょう!

ありがとう 心を込めて・・・

年長さん、卒園おめでとうございます。
一緒に遊んでくれて優しくしてくれてありがとうございました。
ずっと忘れないよ。だいすきだよ。

これは、3月17日の卒園式での、さくら組さんからの言葉です。さくら組みんなで一生懸命に考えた心のこもった言葉でした。その言葉を聞いた年長さんの嬉しそうな表情に、学年を超えた心のつながりを感じ、胸が熱くなりました。

“優しくしてくれてありがとう” “リレーや氷鬼のやり方を教えてくれてありがとう”
“お店やさんに来てくれてありがとう” …
とても素直なありがとうの気持ち。
“ありがとう”という言葉は、言われた人も言った人も、心をポカポカにしてくれる素敵な言葉ですね。

